

～ 言語活動の取扱いの配慮事項 ～

言語活動の指導事項は、3学年を一括して示されています。また、次の2つの配慮事項がそれぞれ示されています。



1. 3年間を通じた指導に当たっての配慮事項

(1) 次の2つの活動のバランスを配慮し指導する。

実際に言語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動

それを支える言語材料について理解したり練習したりして定着させる活動

言語の使用を強く志向し、発音の基本や文構造などについての指導がなおざりにならないようにする。

実際に言語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動において具体的な場面や状況に合った適切な表現を生徒個々が自ら考えたり選択したりして言語活動ができるようにする。

具体的でわかりやすい場面や状況を設定し、いくつかの表現からその場面などにふさわしいものを示しておく必要がある。

(2) 言語活動を行う際、主として次のような言語の使用場面や言語の働きをとりあげる。

言語の使用場面の例	言語の働きの例
◎特有の表現がよく使われる場面 挨拶, 自己紹介, 電話での応答, 買物, 道案内, 旅行, 食事など,	◎コミュニケーションを円滑にする ◎気持ちを伝える ◎情報を与える
◎生徒の身近な暮らしにかかわる場面 家庭での生活, 学校での学習や活動, 地域の行事など	◎考えや意図を伝える ◎相手の行動を促す

2. 各学年における配慮事項

中学校での外国語学習の円滑な導入を図るため、小学校外国語活動でも慣れ親しんだことがあるような言語活動を行わせるなど工夫する。

1 学 年	小学校における外国語活動を通じて音声面を中心としたコミュニケーションに対する積極的な態度など <u>一定の素地が育成されることを踏まえ</u> 、身近な言語の使用場面や言語の働きに配慮した言語活動を行わせる。その際、 自分の気持ちや身の回りの出来事などの中から簡単な表現を用いてコミュニケーションを図れるような話題 を取り上げる。
-------	--

2 学 年	第1学年の学習を基礎として、言語の使用場面や言語の働きを更に広げた言語活動を行わせる。その際、 <u>第1学年における学習内容を繰り返し指導し定着を図るとともに</u> 、 事実関係を伝えたり、物事について判断したりした内容などの中からコミュニケーションを図れるような話題 を取り上げる。
-------	---

繰り返し学習することで定着を図ることの重要性を示している。

◎ 既習事項を言語活動の中で繰り返し学習することで、言語材料の定着を図るとともに、それを実際に使用して互いの考えや気持ちを伝え合う活動などの活動において活用させることが大切である。

3 学 年	第2学年までの学習を基礎として、言語の使用場面や言語の働きを一層広げた言語活動を行わせる。その際、 <u>第1学年及び第2学年における学習内容を繰り返し指導し定着を図るとともに</u> 、 様々な考えや意見などの中からコミュニケーションが図れるような話題 を取り上げる。
-------	--

※ 3年間の大きな流れを示したもの。弾力的な扱いが必要です。